

平成29年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成29年2月27日(月曜日)

議事日程第3号

平成29年2月27日(月曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	吉川慶一君	2番	笠原幸江君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	倉又稔君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	中村実君	10番	大滝豊君
11番	高澤公君	12番	伊藤文博君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	五十嵐健一郎君
18番	松尾徹郎君	19番	樋口英一君
20番	古畑浩一君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	米田	徹	君	副	市	長	織田	義夫	君																				
副	市	長	木村	英雄	君	総	務	部	長	金子	裕彦	君																		
市	民	部	長	岩崎	良之	君	産	業	部	長	斉藤	隆一	君																	
会	計	管	理	者	兼	務	企	画	財	政	課	長	藤田	年明	君															
総	務	課	長	山本	将世	君	能	生	事	務	所	長	原	郁夫	君															
定	住	促	進	課	長	斉藤	喜代志	君	市	民	課	長	池田	正吾	君															
青	海	事	務	所	長	井川	賢一	君	福	祉	事	務	所	長	水嶋	丈明	君													
環	境	生	活	課	長	五十嵐	久英	君	交	流	観	光	課	長	渡辺	成剛	君													
健	康	増	進	課	長	横澤	幸子	君	建	設	課	長	見辺	太	君															
商	工	農	林	水	産	課	長	池田	隆	君	会	計	課	長	丸山	幸三	君													
復	興	推	進	課	長	斉藤	孝	君	消	防	長	大滝	正史	君																
ガ	ス	水	道	局	長	木村	清	君	教	育	次	長	佐々木	繁雄	君															
教	育	長	田原	秀夫	君	教	育	委	員	会	こ	ど	も	課	長	兼	務													
教	育	委	員	会	こ	ど	も	教	育	課	長	山本	修	君	教	育	委	員	会	生	涯	学	習	課	長					
教	育	委	員	会	文	化	振	興	課	長	歴	史	民	俗	資	料	館	長	兼	務	長	者	ヶ	原	考	古	館	長	兼	務
磯	野	茂	君	監	査	委	員	事	務	局	長	大嶋	利幸	君																

十 〈事務局出席職員〉

局	長	小竹	和雄	君	次	長	松木	靖	君
係	長	室橋	淳次	君					

〈午前10時00分 開議〉

○議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（倉又 稔君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、7番、田中立一議員、12番、伊藤文博議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

24日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

○4番（渡辺重雄君）

おはようございます。清政クラブの渡辺重雄でございます。

質問に入る前に、昨年暮れの駅北大火で被災されました多くの被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、関係されました多くの皆様のご苦勞に感謝を申し上げます。

今後は市民みんなで力を合わせて、一日も早い復旧・復興を実現したいものです。みんなで頑張りましょう。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、海洋高校の遠隔地生徒受け入れの現状と寄宿舎などの環境整備についてであります。

海洋高校は、ことし創立119年、来年120周年を迎える新潟県唯一の水産高等学校として「つくり、育て、とる漁業」「海洋開発やマリン技術」「食品開発技術」など広範囲な海洋教育と社会に信頼され必要とされる人材育成を目指し、水産資源科2コース、海洋開発科2コースから編制されております。

これだけの環境・設備は全国の水産・海洋高校の中でも抜きん出ていると言われており、この設備を活用して、「海にかかわる産業こそ未来を志向する産業」と位置づけして、高等教育を受けた人材を日本のみならず世界に羽ばたいていけるよう育成したいと学校関係者は力を入れております。

一方では、このところ、全国に向けて教育実践を発信していることもあり、その成果とともに、多くの遠隔地からの目的意識の高い生徒が入学してきており、寄宿舎「鷗雛寮（おうすうりょう）」が定員オーバーで手狭となり、環境衛生面から考えても生徒にストレスを与えかねないに関係者は危惧をしております。

平成29年度は、さらに多くの遠隔地からの生徒が海洋高校を目指していると聞いており、希望に胸を膨らませ、期待感を持って入学した学校の寮が予想に反していたら生徒も親も夢がしばんでしまいます。

このままの状態では、全国に誇る施設設備の整っている学校と言えども魅力がなくなってしまう、生徒のいない学校になってしまうという心配が高まっております。

このような状況を早期に打開し、さらなる飛躍につなげるために4点についてお伺いをいたします。

(1) 遠隔地生徒の確保による学校の充実についてであります。

このところ海洋高校では、学校の魅力化につながるさまざまな取り組みを行っており、その効果として県外を初め遠隔地生徒も多く、海洋高校の校訓の「質実剛健」「進取力行」「水産報国」という力強さを感じていますが、この現状をどのように捉えているか伺います。

(2) 寄宿舎の整備についてであります。

現在定員40名の寄宿舎「鷗雛寮」は53名の収容で非常に手狭で、居室はもとより、共有スペースである食堂、厨房、風呂、ロビー、研修室なども支障を来す状況と聞いており、県立高校であるが、受け入れ体制に関しては市として積極的にかかわり、環境整備に力を入れていただきたいと思うがいかがか。

(3) 能水会による各種の支援策についてであります。

寄宿舎の運営管理を初め、県より県外生徒に課せられている「親権を代行できる者が新潟県内に得られること」という条件を一手に引き受けていることを初め、独自に「産業教育活動支援制度」を創設するなど、多くの支援策を講じているが、この現状をどのように捉えているかお伺いいたします。

(4) 地域との連携と市による支援策についてであります。

平成28年3月の県立高校の将来構想の中で、「県外の生徒も学びたい魅力のある学校づくりの推進」という方向が打ち出されていることから、県外生徒と地域との連携、市による支援策についても考えていただき、効果的な対応で高校の存続につなげたいと考えるがいかがか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、校訓を教育活動の中でしっかり実践していただいているとともに、たくましく豊かな生徒の人間性の育成を初め、地域に貢献できる人材の育成に大いに寄与しており、市といたしましても大変頼もしく誇りに感じております。

2点目につきましては、県及び高校と協議を重ねながら、市として積極的に支援してまいりたいと考えております。

3点目につきましては、寄宿舎の管理運営では、鷗雛寮の名のとおりカモメのひなが、しっかり大海に巣立つがごとく礼儀正しい人間性の育成を目指しておられます。

また、奨学金や育英支援制度など独自の取り組みのほか、教育環境の改善に多大な支援をいただいているものと捉えております。

4点目につきましては、海洋高校の先駆的な授業や地域の支援のあり方は、魅力的な学校づくりそのものであり、県内はもとより、日本全国から生徒を受け入れてさらに特色ある高校となるよう関係機関と連携して支援してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、1点目の遠隔地生徒の確保による学校の充実について、2回目の質問に入ります。

今回のテーマと内容ですけれども、県立高校でありますし、さらに遠隔地や県外生徒に関する対応についての質問でありまして、ただ、視点を変えてみますと、市にとりましてこの取り扱いを大事にすることによっていろんな面で大きな効果につながると考えておりまして、今回、取り上げさせていただいております。

先日21日に29年度の県立高校の一般選抜の志願状況が発表されておりますが、海洋高校は、倍率は1.09ということで、昨年と同じ倍率で関係者の見通しとしては、遠隔地からの志願者は30名以上に上っているというふうに見ておりまして、3月13日の合格発表と同時に受け入れに力を入れなければならないとしておるわけであります。

そこで、今なぜ海洋高校に県外からこのように生徒が集まるのかという点でありますけれども、今どきの生徒や保護者、どのような高校が魅力的だというふうに思っているか、お考えをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

おはようございます。

今ほどどういふふうなことで県外から海洋高校に来られるんだろうかというふうなご質問だと思いますけれども、やはり先ほど議員が言われましたように海洋高校の校訓、「質実剛健」「進取力行」「水産報国」そういう海洋高校の校訓の中で、やはり海洋の海から多くのものを学んで目的を持って子供たちの夢が実現できる。そういうシステムがしっかりできているということと、それと地域の皆さん方から高校を常日ごろからバックアップしてもらっていると、そういうことから人間として将来、地域、また広く国に貢献できる人間を育てる場として非常に保護者の方々もそれを有益というふうにとらえられて安心を持って希望されるのかということが、この倍率にもあらわれているものというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

私も今、次長がおっしゃるような考え方ではないかなというふうに思いますとともに、この高校の魅力化ということでは、新潟県で最近アンケートをとってるんですね。生徒と保護者は、1番に

ものづくり、2番に難関大学の進学と、それから市町村長、それから学校長、こちらのほうは1番にもものづくり、2番に、いわゆる起こすほうの起業活動ということなんです。

ここで、県外のある方が海洋高校についてコメントしていた記事がありましたので、少し紹介をさせていただきたいと思うんですが、県外から見た海洋高校について、糸魚川市にある新潟県立海洋高校は、全国の水産を学びたい学生から人気があり、新潟県外からも積極的に学生を受け入れております。海洋の名前のおり水産高校で、特色あるカリキュラムが人気を集めている理由です。開かれた校風がすごく印象的で、積極的なPR活動も行っております。その海洋高校について調べてみました。1番の特色は何と言ってもシーフードカンパニーです。学生が実習でつくった加工品をこのシーフードカンパニーで販売することです。この高校の特色とも言える企業家マインドの育成を目的としたその実践の場として社団法人化されました。同窓生も参画して、製造・販売を手がけ、デスクワークだけでは得られない実践感覚を養う場ともなっています。同窓生も参画しているということは、この学校の活動がそれだけ地域の理解を得ている証拠でもありますし、高校としての役割でもある未来を担う人材育成を官民一体となって行っていると言えます。海洋高校の学生が製造した商品をシーフードカンパニーで販売していますが、マスメディアも注目するヒット商品があります。それが魚醤です。実践という枠を超えて、経営の域に入っていると思います。学校自体が開かれているこの学校を調べているに当たって目についたことは、カリキュラムの独創性でもありますが、開かれているということにあります。オープンスクール、中学生を対象とした体験入学、出張・学校説明会など大学ともなると一般的なことですが、高校、しかも公立高校でここまで実施することは、余り例がないと思います。学校見学はいつでも行っていて、興味を持ったらすぐに見学することも可能です。独創的なカリキュラムと相まって、常に開かれた学校として運営していることで全国から学生が集まってくるのだと思います。

途中省略をさせていただいた箇所もありますけども、このように県外の方々の評価は高いものがありますが、市としてこのような評価からどのような感想をお持ちかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今ほど議員が言われますように非常にやっぱり地域との連携、開かれた学校ということでありますので、先ほど教育長が申しあげましたように地域に貢献できるというようなことが、非常に期待されるというふうに思っております。

それで3年間という、やっぱり人生にとって、これから社会人になる前の大切な時期にいろんな経験を通して学ぶということは、知識だけではなくて実践にもすぐ対応できるということでありますので、その中で今、学校のほうでも将来の高校だけではなくて、次のステップ、短期大学、また専門、職業大学とか逆に出口を広げるというようなことも視野に入れておられるということをお聞きしておりますので、そういうことを踏まえますと、単なる高校の授業だけではなくて、広く将来を見据えた人生の自分の個々の夢をかなえる中でも入り口ということと、それと地域に貢献できる、また広く国にも貢献できるという非常にグローバルな視野を持っておられるということが伺えます

ので、他の市内の高校におかれましても非常に参考になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

先ほどの紹介記事にもありましたが、平成26年度から平成28年度にかけていろんな事業、糸魚川市水産資源活用産学官連携事業を行っておるわけでありますが、市との連携で行ってきた主な事業の概要を少しお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

平成26年度から事業のほうが活発になっております。シーフードカンパニー、能水商店の設立に伴いまして、魚醤の関係の設備事業、これは26年に行っております。また、能水商店の換気扇の修繕でありますとかそういうものもやっております。

特に大きな事業といたしましては、平成28年、27年の地方創生加速化交付金事業の繰り越しでございますけども、ハラール認証の取り組みでありますとか、海外市場、スイス、マレーシア、こういうところへの海外市場調査、さらには市内外の企業との連携によるメニュー開発、こういう一般的にはなかなか実施できないような、そんな実践的、しかも特色ある教育人材育成に取り組んでおるといふことであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

これらの事業、非常に評価を得ておるわけですが、特に各種の受賞もされておりますけども、こちらのほうも主なものをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

海洋高校の取り組みにつきましては、産学官連携のもと地域に根差した活動ということで、生徒は、より実践的な活動を通じながら海洋、水産人材の育成ということでもあります。その成果の一環として今、渡辺議員からご質問のありました受賞関係であります。昨年、内閣官房と農林水産省における「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として全国30地区の優良事例に選定され、首相官邸で表彰を受けております。

また、GOOD DESIGN AWARD 2016、それとか新潟日報文化賞など数多く受賞されており、これまでの活動が高く評価されたというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今の海洋高校につきましては、生徒と保護者にとっては、自分たちの願いをかなえてくれる学校というふう感じておられるんじゃないかと思うんですが、ものづくりとか起業に関してもそうなんですけども、寮生活に関しても厳しいけど団体生活で得るものが多いということで入学してくる生徒が多いというふうにお聞きしておるんですけども、寄宿生活と教育を結びつけて考えた場合、教育委員会としてはどのような考え方を持っておられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

海洋高校の寮生活につきましては、定員は40人で今50名ちょっと入っておられますけども、女子寮もまた別にありますけども、舎監がおられるということでもあります。舎監については4人体制で、昼夜、夜中も寝泊まりをしているということでもありますので、非常に、常に舎監の方々は、ただの寮ではなくて、そこで人間的なモラルといいますか、そういうものをしっかり教えているということでもあります。先ほどの鷗雛寮という意味は、カモメのひなが巣立つようにということでもありますけども、しっかり一人前の人間として育てるようなシステムがそこにつくられてるということでもあります。

それと1年生から3年生までおられますので、その中でのある意味、先輩、後輩という中での社会的な、人間的な広がりのあるいろんな上下の関係も踏まえて、先輩、後輩をいたわる、そういった面もそこで学びとれるのかなというふうに思っております。

それと、そこで地元の食材を使って、給食の方々も調理員の方々もおられるというところからも地域の食材を使って食べるということから、食育もそこで十分なされているのかなということから、地域の方々にも感謝をして、そういう食材を通してもらえるのかな。そういう学びの部屋といいますか学びの家がその寮の中でのシステムということと、それと人間的なものを学べるということも含んでおられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

おっしゃるようないろんな相乗効果があるわけですけども、いわゆる県外生徒の受け入れという点で、島根県が非常に積極的に行っているということで、島根留学というふうに言われておるんですが、未来との縁結びというふうな捉え方をして、県外からの生徒を大事にすると。

それから、学びで移住ということで、生徒ともに一家での移住も進めているというふうなことなんです。

したがって、この高校を単に大学進学とか、就職の前段だというふうな位置づけから、人口減対

策、それから地方創生ともリンクさせて取り組んでいるというふうなことなんですが、この糸魚川市としてもこの辺を一步も二歩も踏み込んだ考え方を持ったらどうかというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今ほど議員がおっしゃいますように非常に少子高齢化の中で人口減少が、徐々に今、加速化していくというような厳しい状況でありますけれども、そういう中であって、やはり学びの場所を当地に選んでいただけるということは、大変光栄なことだというふうに思っております。

そういう意味で、今、議員が言われますように家族でもこちらに来られたいという方も出てくれば大変有益なことだと思いますし、また、地方から海洋高校に来られて、そこで卒業をして、また地域に根づくということになれば、まさに産官学の中の新しい循環になるのかなというふうに考えておりますので、そういう面ではそういう入り口だけではなくて、出口の部分もしっかり今後、対応して行って、子供たちの夢がかなうような環境整備に努めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、先日、市長の行政報告の中にもありましたが、2017年版の住みたい田舎ランキングで、総合で11位、若者で7位というランクから考えても糸魚川市の地の利というのは、相当アップされてきているというふうなことを感じるわけで、相乗効果につながる企画をリンクして考えていただけたらと思うんですが、もう一度いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

おはようございます。

今ほどのお話の流れの中では、やはり若者に向けた移住・定住、特に高校生ということで大きな今後の定住や移住に向けた役割といたしますか、立場というかそういったものがあるのかなということでの話と受けとめます。

我々も地方創生の総合戦略やっていると、やはり小中でのふるさと学習、非常に有効になってきてはいるんだけど、それが高校へ行くと少しやっぱり尻すぼみになるんじゃないかと。その辺上手にやっておられるのが、先ほどあった島根の、特に隠岐島の島前高校ですか、非常にそういった高校生を地域に巻き込むという大変ユニークな教育環境をつくって生徒を呼んできているというように学んできました。そういった流れが何かできないかなということでは考えておりますし、今後、我々も若者に着目しながら、高校生のときにいかに地域のことを考えてもらうか、そういっ

たことをまた地域に参加してもらえるかという仕組みが重要じゃないかなというふうにも考えております。今後、そういった展開できる事業も工夫をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

この辺のところは、また後の項目のところでも触れたいと思うんですが、2点目の寄宿舎の整備についてお伺いいたしますが、平成28年度は53名でスタートしたということなんですが、4月から始まる新年度もこの人数、53名でスタートしなければならないというふうにお聞きしておりますが、いずれにしてもこの状況を打開するためには、どのような形が1番いいのか、またそのためには関係者間でどのような動きが必要なのかということなんですが、市としても今まで県に寄宿舎に関してどのような要請をされているのか。要請をされたというようなことをお聞きしておりますが、増改築の具体的な要望ということをされてきたのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

定員をオーバーしてるという状況を鑑みれば、やはり当然まずは県に要望をして、何とか環境の改善をお願いしたいということは、昨年6月24日に県の池田教育長宛てに要望書を提出させていただきました。何とかお願いをしたいという要望を市長からさせていただきました。

しかしながら、急にはなかなかハード面については、昨年、一昨年を含めて大規模な改修をしたばかりということですので、難しいというご回答がありましたけれども、市といたしましても雇用促進住宅の協力を得ながら何とかそこを使っただいて、当面はそのハード面プラス備品も県から協力いただけないだろうかというお話をさせていただいておりました。すぐ対処療法的なことな感じになってしまいましたけれども、やはり抜本的には安定した生徒の受け入れ体制、また整備を進めたいというふうに思っておりますので、都合、七、八回、県とは協議を進めてまいりましたけれども、抜本的な改良に向けて今後、議論を深めて、市としてもやってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

いろんな事情があるというふうなこともお伺いしてはいるんですが、このところは県立高校ということで、寄宿舎も県でというのが基本かなと思うんですが、県が動かないんだったら市で対応しようというの、これは山陰、島根・鳥取のケースを見るとそのような動き方をしとるわけなんで、一步踏み込んでその辺のお考えというのはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

議員言われるように一步踏み込んだというところがございますけれども、基本的になかなか県が動きがとれないという状況でありますので、市でできることはということで先ほど教育長は言われましたけれども、そのとおり市としてハード面でどういう整備ができるだろうかということで、基本的には市の公共用地の提供、またそういうことも含めて学校、県とも協議を進めさせていただいております。

それと、ほかに適地がなければ今の鷗雛寮の近くだとかいろいろな議論をする選択肢の中では、そういうことを含めた検討が必要だろうなというふうには思っております。

また、学校、県からもPFI方式でと、建物のほうはそういうご提案もいただいておりますけども、その辺についても選択肢の一つとして協議を進めなきゃならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

先ほど次長のほうから雇用促進住宅等の活用もというふうなお話もありましたが、アパートや下宿というふうな方法もあると思うんですが、勤め人といいますか大人と違うわけで、学校や同窓会では、生活指導面での不安というのがあるんですね。今の鷗雛寮みたいに専任の舎監が配置されて、きちっとした形の生活ができる寮の受け入れというところとはちょっと違うわけですし、また県外からおいでになる生徒、保護者からは、海洋高校、寄宿舎があるからということで支持されてるというのが大きいというふうなこともお聞きしてございまして、生活指導面からいっても寮の必要性というのは、非常に重いというふうに私も感じておるんですが、その辺抜本的な、先ほどのお話のように、いわゆる対処療法的な方法と抜本的なという2つのことが考えられるんですが、もう一度その辺の生活指導面というところから見た寄宿舎ということについてお伺いしておきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今ほど議員がおっしゃいましたように生活指導面、先ほども少し触れましたけれども、やはり保護者の方々も安心して子供たちが卒業するまでの間を見ていただけるということで、先ほど学校で学ぶだけではなくて、地域とのかかわり、そういうものも含めた中で考えますと、やはり寮というものの役割というのは、大変大きいと思っております。先ほど対処療法的なことの中で雇用促進住宅も挙げましたけれども、下宿ということも地域の方々との接点の中でまちづくりにも貢献するんじゃないかという案もございました。

しかしながら、時代はやはり20年、30年前と少し変わっておりますので、少しその辺は、逆に言うと速度が遅いのかなという面もございました。そういう意見を聞く中でやはり寮の整備というものは役割が高いというふうに思っておりますので、その辺も含めて抜本的な措置に向けて前向きに検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

現在の寄宿舎であります、40名のところを53名ですか、空き室が全くないんですね。一番困るのは、病気になった場合、2人、3人の相部屋になっておりますし、特にインフルエンザとか感染性胃腸炎等の伝染性の疾患が発生した場合、隔離スペースが全くないんですが、このような場合、基本的にどのような対応をすればいいのか。一般的な対応として健康増進課の横澤課長、もしあれでしたらお伺いしておきたいと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

集団生活においては、やはりまず予防対策が一番重要なことだと考えております。寄宿舎内に予防についてのポスターを周知するなど、周知徹底を図るとともにインフルエンザでいえば予防接種をすることも大事なことでないかと考えます。

また、環境面においては、特にインフルエンザは湿気に弱いと言われておりますので、適度な湿度を保つことも必要だと思いますし、さらに基礎体力をつけて、そういった感染性の病気に強い体をつくるという意味では、バランスのとれた食事ですとか睡眠をとるとか、そういったことも必要であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

私も先日、この寄宿舎を拝見させていただきましたが、建物の中は非常にきれいに整頓されておりました。非常に清潔感は、その点ではありましたし、ただこの共有スペース、いずれも非常に狭い。調理スペース、配膳スペース、そして食事のテーブル、折り畳みの椅子がびっしりで肩がぶつかりますので、内側にかがめて食事をとるといったような状態なんですね。それから、洗濯室、乾燥室の装備、これも人数が多いわけですので、非常に支障を来している。

それから、お風呂なんですけども、畳2枚、いわゆる一坪ぐらいのお風呂だったんですが、洗い場が4人ぐらいでいっぱいいっぱい。順序よく入ったとしても1人20分ぐらいとしても4時間ぐらいかかるというふうな状況ですね。何よりもお湯が汚れますので、かけ流しでしのいでいるというふうなお話をお聞きしておりますが、このような状況をお聞きして、市長いかがですか、感想をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。お答えいたします。

非常にこの寮の設立時と今大分、我々の環境に対する考え方、また衛生面に対する考え方も大分変わってはいると思っております。ある程度のやはり年齢を経ておるわけでございますが、非常に今の生活ではマッチしないのではないかと。やはり若者が集うまちづくりということを考えたときに、県立高校とはいえ、市もやはりしっかりとその辺はお願いをしていかなくちやいけないし、県立高校という中でもって進めていくんですが、その辺の枠の中からやはりどうしても出られないとしたら、市といたしましてもやはり積極的に対応していきたいと思っております。今まではどちらかという対照的な考え方であったわけですが、しかし、施策として若者の集うまちとして捉えていく部分も私はあっていいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

非常に前向きなご答弁をいただきました。施策としてぜひ取り組んでいただきたい部分があるというふうに私も思います。

それから、能水会の皆さん、関係者にお聞きしますと、この現在の寄宿舍であります、鷗雛寮の向かい側に以前、畑として近くの方が耕作していた畑が荒地になっていると。こういうふうな非常に、ここの活用を考えたときにすぐにでも共有スペースが非常に手狭になっているので、そちらのほうへ共有したものだけでも対応していただければというようなお話も伺っているんですね。例えば食堂、厨房、風呂、それから研修室など、こういうものを別に設置をしていただくだけでもかなり対応できるというふうなお話をお伺いしてるんですが、具体的にこのようなお話をお聞きしたことございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今ほど渡辺議員のお話の場所につきましては、私も現地を見させていただいております。

また、海洋高校の校長先生からもそういうことはどうかという話も聞かせてもらっておりますし、先ほど候補地の中に幾つかの場所を見る中でその場所も入っております。またこの件は、県の教育委員会等何回か協議の中でも話を進めているところであります。

当面の対策につきましては、今答弁させてもらっておりましたが、今後、抜本的にどのようにするかというときには、その場所についても考えの中に入れていきますし、市がそこにどのようにかわっていくか。また県立でありますので、県教委がどのような考えであるか、そういうところを

よく協議をさせてもらいながら進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

この学校の生徒募集には、寮が完備しているというふうな形で出してあるわけですので、県外生徒のほとんどが寮というのを頭に描いて応募をしてこられるというふうなことをお聞きしております。そういたしますと実際と乖離が生じた場合に、非常に能水会の皆さんもせつないというようなお話をお聞きすることが非常に大きいんですね。今後というふうなことで、寮の整備・完備ということだけ考えますとなかなか難しい面もあるかと思うんですが、今、先ほど市長のお話にあったように若者、あるいはこの地域との連携、そういうものを考えた場合、いわゆるセミナーハウスのような通学生も、また地域の人たちも集えるような形で設置をするような方法というのとも考えられないかなというふうに思うんですが、そのようなスタイルの設置の仕方というのはいかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろいろな考え方があろうかと思えます。寮というだけで考えるとやはり県の管轄の教育委員会の管轄に入ってしまうかもしれませんが、いろいろな考え方の中で柔軟に捉えていければいろいろな考え方ができますし、また市といたしましても支援ができる部分も出てくるのかもしれないので、今ご指摘いただいた点についても大きな事柄だろうと捉えるわけでございますので、それも含めながら検討を進める中で我々はどう進めていくかということもやはり同時に考えていくことも大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それからつけ加えておきますと、高校生からの寮生活ですから非常に成長期の多感な時期、親と離れて過ごすということで、自分の意思で決めて来られるというふうなことでありますけども、何かあればくじけてしまう。特に親元を離れている場合、寮生活がうまくいかない学校もやめるといような事態につながってしまうということで、この寮の整備なり寮の対応というのは、非常に大きなものがあるというふうに関係者はお話をしておりますので、ぜひともお願いをしたいというふうに思っております。

それから、3点目の能水会による各種の支援策についてでありますけども、同窓会であります能水会の平成28年度の総会での岩崎会長さんのご挨拶によりまして、教育活動支援制度で部活動の支援や県外生徒募集の学校説明会費用に有効に使っていただき、志願状況もよく、入学生徒のうち

35%に当たる男子23名、女子5名が入寮し、大いにその効果を上げてるといふふうに述べられてるわけですが、同窓会が学校存続のために先頭になって活動を展開しているということがうかがえるわけですが、このような活動については、教育委員会としてはどのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

先ほどの岩崎会長のお名前も出てまいりました。新聞でも私も見させてもらいまして、本当に寮の管理だけではなくて本当にここまでやっていただけるのかということで、非常に能水会の活動については、ほかの例にはないぐらい学校生徒並びに保護者へのバックアップというのはすごいなというふうには感じております。

そういう面で教育活動の支援制度ということでそういうような育英制度もやっておられるということでありますので、市といたしましても金額的には少ない金額でありますけれども、平成28年度から魅力づくりの支援、高校の魅力づくりの支援ということで3高校を対象にやっておりますので、そういう面でも能水会への支援ということで、また有効に活用していただければなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、次長おっしゃるように教育活動支援制度、平成24年度から開始してるということで、同窓会の皆さんが資金を拠出されて活動されてると。行政としても県外や市外で学校説明会をする際に人的にも資金的にも協力する必要があるというふうに思うんですが、先ほどのように魅力づくりの資金として、これは40万円ですかね、拠出をされておるんですが、これ今後も続けていくということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

県の学校は統合の問題もございますけれども、当面の間は高校の魅力づくりを市といたしまして支援をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

この独自に活動支援事業制度を設けている中身をお聞きしましたところ、奨学支援、それから育

英資金、学校支援、クラブ研究支援というふうなところで、学校支援に一番多く拠出しているということでありました。この海洋高校の場合、同窓会であります能水会が必死になって生徒募集、それから寄宿舎の対応、それから先ほどから紹介しておりますが、キャリア教育の推進ということで、地域振興にもつながっておるんですが、シーフードカンパニー能水商店を開業することなど、いわゆるこれらにも人的支援、それから資金提供等も非常に大きいものがあるということでもあります。それらから非常にいろんな面で評価されておるわけなんですけど、継続してやっていきたいと役員の方々がおっしゃっているんですが、この状態を果たしていつまで維持、発展、継続させていけるかどうかという、このまた心配もされております。

そこで、幹部の皆さんのお話ですと、今こそ行政や地域ともっと連携して、力をお借りしながら今後のあり方を検討していく時期ではないかなというようなこともおっしゃってるんで、今がいいからお任せできるということよりも、この先の心配というのをされてるんですが、その辺、行政としていかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり魅力ある高校という形で非常に頑張っておられる部分がございます。それにはやはりOBの皆様方が支えておるといふ他にない、例のない力をやはり注がれておるといふのも大きな魅力だろうと思っております。そういうやはり魅力を大切にしていきたいと思っておりますし、しかしそういったやはり特色を消さないように行政としても支援していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

行政からかかわっていただくことによって、今以上の形をつくれれば非常にいいんじゃないかなというふうに思っております。

4点目の地域との連携と市による支援策についてでありますけど、まず市のホームページで、市内高校3校の紹介というのは、どのような形で行っているかをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

市のホームページのリンクでありますけども、教育のサイトから入っていただいて、たしか高校のサイトに飛ぶようになっておりますので、各高校のホームページ3つ持っておられます。そのホームページに飛ぶような方法になっております。

ただ、バナーとして一番最初のトップページには入っていないのは少し、せっかく魅力づくりのPRをしてるのに不足かなというふうには今反省しておりますので、今後バナーといいますかトッ

プのほうに持っていけるような格好できますようにちょっと内部で検討いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

紹介は、特にこの海洋高校に関しては、結構紹介されてるということを確認をいたしました。三重県の多気町、このまちのホームページのトップページの上に高校生レストランのまち多気町というふうに大きく表示しておりますし、あらゆるところで地元の相可高校、能水、いわゆる海洋高校の関係で私も視察をさせていただいたことあるんですが、そういうふうに町が先頭になって売り込んでいます。それから、先ほどお話ありました隠岐島の海士町の島前高校、こちらのほうもトップページにバナーがドンと乗っかっております。このようにして、やはり県立高校でありまして市が率先してPRすると、導くというようなところ、今、次長のほうから1つの反省点としてお話ありましたので、ぜひともその辺実現をしていただきたいというふうに思っております。

それから、先ほどの話にも重複するんですが、これだけ海洋高校が県外生徒から支持をされて来ていただいているわけですから、生徒が卒業後もこの地域を第二のふるさとというふうに感じてもらうような仕組みづくり、寄宿舎生が地域活動へ参加する機会、これを持てるような仕組みづくりみたいなものも検討していただければ非常にありがたいなと思うんですが、地域との連携の中でそういう仕組みづくりできないでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

海洋高校は、今、特色ある学校づくりを進めるに当たって、地域の支援、また同窓会の支援が大変大きなものがあり、評価とまた実績を上げてきております。高校生のキャリア教育の一つとして糸魚川市の市政に関心を持ってもらう。あるいはこれからのまちづくりに計画にも参画していただくということが大変重要でありますし、そのことが子供たち生徒の地域に対する関心、それがまた地域に住むことになるということにつながると思っておりますので、今後の教育の中で考えてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから私、地方創生調査対策特別委員会で施策提案の中で提案をしておるんですが、海洋高校の各種の取り組み、これ最近、相当評価されて、生徒の進路にも期待をしているわけですけども、さらなる専門的で高度な海洋教育、国はもとより世界にも通用する人材を生み出す地域にしたらどうかということで、新潟県立大学の学科として海洋高校に隣接して水産学部の設置とか、あるいは海洋高校にかつて専攻科があったわけですが、これらを再度、いわゆる設置するというような2年

修学、この専攻課程、要望する声は非常に大きいんですけども、その辺の働きかけ、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

昨年、中教審からも出ておりますように専門職業大学、こういうものが出されましたので、大学の開学ということで門戸が広がりました。そういう面で今、校長先生はそこを狙っているということで短大の専門職業大学、まず4年生も含めてでありますけれども、そういう中で実践を踏まえる中で、そこで技術を磨くと。そこで培った時間というのは、単に影響するということで、海洋版デュアルシステムをつくりたいというようなこともおっしゃっておられますので、そういう方向がまた示されて、どういうことでそういう職業大学校がつくられるかどうかというのはまた検討させていただいて、支援できるところは支援してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

海洋丸の代船が決まりまして、平成31年の3月に就航というふう聞いておるわけですが、今の海洋高校では、航海士の資格がとれないというようなことで、海洋高校で資格を取るためには専攻を設置して、海洋丸をみずから操船できる生徒を輩出したらどうかというふうなことでありますので、これはかつて専攻科で航海士の免許を取って世界を羽ばたいてる人たちの願いなんです。今回、海洋高校の遠隔地生徒受け入れの現状と寄宿舎などの環境整備ということで質問をさせていただきましたが、中央教育審議会の新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校や地域の連携、協働のあり方、これの答申を見てみますと、今までの開かれた学校から地域とともにある学校への転換、これを強調しておりますね。

したがいまして、海洋高校の関係者の皆さん初め多くの皆さんの願いを実現して、今まで以上に地域とともにある学校というようになるよう行政からも応援していただきたいことをお願いしまして、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

○16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

質問に入ります前に、改めて駅北大火被災者の皆さんにお見舞い申し上げたいと思います。一刻